

# 当別町へ 移住した二人の アーティスト



染色作家  
小島 柚穂 さん

小さな頃から絵を描くのが好きで、幼稚園から中学まで絵画教室に通い、中学・高校では美術部に所属していました。高校卒業後の進路を決める時に美大の予備校を知り、美大への進学を目指しましたが、絵画専攻で臨んだ初めての受験は不合格でした。

この時、自分が何を学びたいのか振り返ったときに、自分を表現するのが絵画、人の暮らしに役立つのがデザイン、その両方の要素を併せ持つのが工芸であると思ひ、工芸の道の進むことを決めました。

翌年進学した京都市立芸術大学では染色を専攻しました。工芸の中でも平面に近い布の染色で、染色の技法で絵画的な表現がしたいと考えたからです。大学卒業後は工芸家を養成する金沢卯辰山<sup>うたつやま</sup>工芸工房で、3年間技術を磨きました。



町内のアトリエ



町内で依頼されたパネル作品

木と糸や布を  
合わせたアクセサリ



大丸札幌店での期間限定の展示販売



旧・カネヨよねぐち呉服店でワークショップ

金沢で活動した後、北海道に戻り、染色作家として創作活動を行うためのアトリエを探していたところ、当別町のアーティスト・イン・レジデンスを知り、応募しました。自分の活動が受け入れてもらえるか不安もありましたが、周りの方々がこちらの話を一緒に考えてくれて、親身になってもらえたことで、当別町での活動を決意、4月に当別町へ居を移しました。本格的な染色の制作には大きなアトリエが必要でしたが、町内企業のご協力のおかげで、独立したアトリエを構えることができました。

今は、アートイベントに参加したり、町内の企業や個人の制作依頼も受けています。今後は紫根など町内の素材を活用した染色にも取り組みたいです。

工芸は人の暮らしのそばにあるもので、暮らしそのものでもあります。中でも染色、とりわけ布は人の一番近くにあるものです。人と共に歩めるものづくりをするために、これからも様々な分野の人と関わりながら、染色作家としての幅を広げていきたいです。

小島さんの作品はインスタグラムで公開されています。  
右のQRコードからご覧ください。





昨年度開催されたアーティスト・イン・レジデンス事業。この事業をきっかけに移住した商店街の空き店舗を改装したアートスペース「旧・カネヨよねぐち呉服店」で活動続ける二人のアーティストを紹介します。

小さな頃から絵を描くこととエレクトーンを演奏することが好きでした。将来はどちらかを仕事にしようと考えながら過ごした学生時代。絵の道に進むきっかけとなった絵画の先生は、この頃に出会いました。

絵画の先生に油絵を教わりながら、17歳に初めて絵画展に出展。青少年向けの絵画展に何度か出展した後、20歳の時に新道展に初出展しました。その頃には絵を仕事にしようと考えましたが、美大等には進学しませんでした。先生の指導を受けながら、油絵を中心に制作・出展を重ねて、27歳の時に新北海道美術協会の会員に。その後は、油絵と並行して空間をデザインする「インスタレーション」にも取り組み、創作の幅を広げながら、道内外の公募展への出展や個展の開催、個別の受注販売などで創作活動を続けていました。



油彩画家・イラストレーター  
**浜地 彩**さん

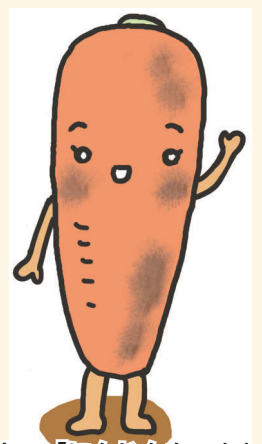
Rays



滝の湯の浴場に掲げられた壁画



ふれあい倉庫で展示されたインスタレーション



大塚農場の新キャラクター「にんじんちゃん」

こうして創作活動を続けていた昨年11月、北海道新聞に掲載されたアーティスト・イン・レジデンス募集の記事を見つけました。当別町は祖父母が住んでいて小さい頃は何度も遊びに行ったこともあったため、身近なまちでした。自分のやりたいことを応援してくれていると感じてプロジェクトに応募。決定してすぐに当別町に移住しました。

当別町に活動の拠点を移してからは、町内のアートイベントにも参加し、イベントの一環で町内の銭湯滝さんの壁画も制作しました。その後、町内の繋がりが増えて、大塚農場さんのキャラクターも手がけました。

一般の方には人物の肖像画のほか、ペットの肖像画も人気があります。また、当別に来てから絵画教室も始めました。油絵でもイラストでも、絵を描くことが好きな方であればどなたでも参加できます。これらの活動を通じて、皆さんの生活の中に、絵を届けていければと思っています。



旧・カネヨよねぐち呉服店でワークショップ



上：まちかど (アクリル)  
左：ちいさなしあわせ (油彩)



浜地さんの作品はInstagramで公開されています。左のQRコードからご覧ください。